

令和 5 年度事業報告書 <白楽荘・医務室>

テーマ：福祉・医療・介護の地域共生社会の中で、安全で安心な魅力ある法人サービスを目指す

サブテーマ：家族・多職種との連携、協働により安全で安心な医療・看護を提供する。

1. 安全・安心な生活が送れるよう健康管理を行う

- ① 多職種で情報を共有して異常の早期発見やケアの統一に努め、安心・安全な医療・看護を提供することができた。
- ② 利用者の状態変化時には、早い段階で家族に連絡、意向を確認した上で Dr から病状説明を行ってきたが、タイミングの見極めが難しい場合もあった。
- ③ 新型コロナやノロウイルス等感染症発生時は、感染員会を開催して情報を共有し、必要な医療を継続することができた。

1 月に発生した新型コロナ感染症は、夜勤の応援体制にあった 2 チームで入所者 11 名、職員 5 名のクラスターとなり、アフターコロナで 2 名が入院、1 名が体調回復せず看取りとなった。感染対策徹底に努め、他チームへの感染防止の為、NS 自身が感染しないよう細心の注意を払った。

BCP 実地研修を行ったが、3 月の感染性胃腸炎発生時は、発生の現場では経験者が少なくマニュアルに沿った感染対応が出来ていないことが多々あり、その都度指導した。

- ④ オンコールの研修を行い、認識の統一を図るために要請事例や対応手順などを作成。

各チームの電話機付近に設置して、すぐ確認できるようにした。

2. 個別機能訓練により生活機能の維持・向上を目指す

- ① 利用者の可能な ADL を把握し、継続して取り組めるような目標や訓練内容を設定、実施することができた。

- ② 他職種で連携し利用者と密に関わることで、利用者のしたいことや興味のあること等、情報を共有し支援することができた。

3. 看取りケアの充実

- ① 新型コロナ禍で面会時間制限があったが、多職種の連携・協働により、その人らしい安らかな最期を迎えられるよう努めた。
- ② 家族が安心できるよう、面会時や電話で定期的に状況や日々の変化を伝え、意向を確認しながら家族の思いを尊重した看取りケアを行うことができた。

4. 働きやすく、魅力ある職場環境

- ① 困りごとやストレスをためないよう、相談や、感謝や称賛の言葉かけを行い、チームワークの向上に努めた。
- ③ 文書だけでなく写真なども活用し情報共有に努めた。また、看護だけでなく、介護職とも意見交換を行いお互い協力することができた。